

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(12月26日～1月1日)

2023年1月9日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領がロシアを訪問(12月24日～27日)

●ベラルーシ領内でS-300対空ミサイルシステムの破片を発見(12月29日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ロシア訪問(12月24日～27日)

12月24日(於モスクワ郊外)

・宇宙飛行士訓練センターを訪問。ベラルーシ出身の女性宇宙飛行士候補6人を激励。

・国際宇宙ステーション(ISS)の原寸大模型等の訓練施設を視察。

12月26日(於サンクトペテルブルク)

・独立国家共同体(CIS)首脳非公式会合に出席。

12月27日(於サンクトペテルブルク)

・プーチン露大統領とともにロシア美術館を訪問。

(12月24日～27日 大統領府)

・我々は紛争地域からの難民を受け入れて保護し、仕事を与えた。

・31か国から来た7,000人以上がベラルーシ国籍を取得したが、その大半はウクライナ人であった。

・ベラルーシはこれまでも、これからも、もてなしの心を持った友好的な国であり続け、我々の価値観や伝統を心から受け入れ、心から愛し、ベラルーシ人を名乗ろうとする人に開かれた国であり続ける。

・平和で安全に暮らしたいのなら、まず軍・治安関係者の働きに敬意を払い、感謝し、子どもたちを愛国者として教育し、法律を遵守しなければならない。自由で独立した国家に住みたいのなら、歴史的な記憶、精神的な価値、先祖伝来の伝統を大切にし、保護しなければならない。

(12月31日 大統領府)

●2023年に寄せた国民に対する挨拶

大統領は要旨以下を述べた。

・2022年は、容易ではなく、矛盾した、時に緊迫した年であったが、重要なことは、我々にとって平和な年であったということ。

・2022年は政治的選択の年であった。ベラルーシの人々は、自らの歴史的記憶、自らの原則や伝統を守る点で一致して答え応じた。国の行く末を真剣に考えている全ての人々が、新憲法を巡る議論に参加し、ベラルーシの未来を決定した。

・2022年は、農業生産、食料輸出、各種インフラや住宅の建設、エネルギー安全保障の強化等で顕著な実績を上げることができた。

・制裁下であっても、新たな製品を開発して新たな市場へと進出した。

・ベラルーシに対して国境が閉鎖されたが、何十万人もの欧州連合(EU)国民が無査証で、また何らの妨害もなくベラルーシにやって来た。

●スロバキア共和国建国記念日に寄せた祝電

祝電は要旨以下のとおり。

・歴史を通じ、ベラルーシ人とスロバキア人は常に、対等、信頼、敬意という原則を重んじ、支持してきた。両国民を結びつけたものは、第二次世界大戦時にともに戦ったこと、ビジネス面や人的な相互協力を進展させることへの関心であった。

・2023年は、外交関係樹立30周年となる。両国間の誠実な友好と結びつきが、政治的な野望や対立によって突然打ち壊されたりすることなどあり得ない。両国民は必ず、着実な接点を維持するための方途を見つけ出すと確信している。そうしたことは、両国間の協力を深めるための強固な基礎となる。

(1月1日 大統領府)

【外交】

●アレクシス外務大臣とチュトラ・ハンガリー大使の会談

・二国間関係の現状、地域情勢・国際情勢の喫緊の問題を協議。

・両国ともに、二国間の対話の継続と、両国に利益となる分野での関係進展の用意があることを確認。

(12月28日 外務省)

●グロドノにロシア総領事館が開館

(12月28日 グロドノ州執行委員会、「ゼルカロ(鏡)」)

【内政】

●ベラルーシ国立美術館で18人が解雇

(12月26日 「ゼルカロ(鏡)」)

●マスメディア関係者に対する弾圧の継続

ゴレツキー「ベラルーシ・ジャーナリスト連盟(BAJ)」副代表は2022年を総括し、要旨以下を述べた。

・当局が独立系メディアを非合法化したため、独立系メディアはほとんど残っていない。

・投獄中のマスメディア関係者は、2021年末は約30名、2022年末は33名。大半の独立系メディアの編集部が国外に移転したが、投獄中のマスメディア関係者の数は大きく変わらず、2022年には10人が釈放されたものの、新たに投獄された者が出てしまった。

・2022年、当局によるジャーナリストの逮捕件数は40件以上、家宅捜索は55件で、20人が行政罰に処され、科された罰金は総額10万9,280ルーブル(約41,712ドル)。

・弾圧機構は止まることなく新たな犠牲者を求めており、独立系メディアに積極的に協力している人が国内に残っていなければ、国外で活動している人のところにやって来るまでになっている。

(12月28日 BPN)

●12月31日現在の政治犯の数は1,448人

・12月27日には1,456人にまで増加。

(12月28日、31日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【治安・軍事】

●ベラルーシ領内でS-300対空ミサイルシステムの破片を発見

・ベラルーシ国防省によれば、12月29日10時ごろ(GMT+3)、防空軍が航空目標を撃破。その破片がブレスト州イヴァノヴォ地区ゴルバハ村付近に落下。被害者なし。

・ベラルーシ大統領府によれば、捜査委員会、内務省、国防省の専門家が現地調査を実施。破片はウクライナ領から発射されたS-300対空ミサイルシステムのものとされる。

・国営ベルタ通信は自社Telegramを通じ、発見された破片の写真を公開。

・ニュースサイト「ゼルカロ(鏡)」は、上記の破片の写真と、SNS等を通じて入手できるS-300対空ミサイルの部品の写真を照合した記事を配信。この破片がS-300対空ミサイルのものであること、同ミサイルがウクライナ軍のものかベラルーシ軍のものであるかは判然としないことを指摘。

・外務省はキジム駐ベラルーシ・ウクライナ大使を召致。本件の原因究明と再発防止に向けた措置を要求。

・イフナト・ウクライナ空軍報道官は、29日にはロシアによるウクライナへのミサイル攻撃に対して防空システムが活発に活動していたとした上で、ウクライナ軍の対空ミサイルが誤ってベラルーシ領内に落下することはあり得る、否定はできない旨コメント。

・12月30日朝、国防省は、対空ミサイル部隊局長カザンツェフ大佐による「本件については疑問が残る。国防省としては2つの線を検討しており、1つは訓練が行き届きなことによる意図せざる発射ないしはミサイルの故障、もう1つはウクライナ軍による意図的な煽動」との発言を発表。

・同日午後、ロシア国営「Sputnik.by」が、ヴォリフオヴィチ国家安全保障会議国家書記による「ミサイルが飛来したのが偶然だったという保証は極めて少ない。何らかの意図が実行されていた」との発言を報道。

・同日夕刻、国営ベルタ通信が、弾頭部の爆破処理の様子を動画にて公開。

(12月29日、30日 大統領府、国防省、外務省、国営ベルタ通信、Sputnik.by)

●内務省国内軍に新たな特殊部隊「ルイシ」が設立

主な任務は、違法な武装集団や破壊活動・諜報活動を行う集団への対応。

(12月27日 内務省)

●ミンスク警備司令部は戒厳令への移行訓練を実施

(12月28日 国防省)

●空軍・防空軍副司令:北大西洋条約機構(NATO)との協力は無意味

空軍・防空軍イデオロギー活動担当副司令のブラフコ大佐は、国営「首都テレビ(STV)」の番組で要旨以下を述べた。

・我々は NATO との協力から、名目上は撤退していない。しかし事実上は、たとえ将来的にでさえ、協力は恐らく無意味。ベラルーシとロシアを、仮想ではない敵国として、根拠もないままに断じるという政策が行われているため。

・我々は演習時に、これらの諸国との戦争を想定した訓練を実施中。

(1月2日 国営「首都テレビ(STV)」)

●周辺国でのスパイの摘発

(1)ポーランド

・12月30日、ポーランドの検察当局はベラルーシ人とロシア人各1名をスパイ容疑で起訴。

・両名は2017年から2022年4月にかけて、ポーランドの軍事施設や非常事態に際しての行動等の情報をロシア軍参謀本部情報総局(GRU)のために収集していたとされる。

(2)ウクライナ

・12月末、ウクライナ保安庁(SBU)は、チェルニヒウ州の住民を拘束。

・同人はベラルーシの特務機関に対して国境周辺の情報を提供する等の諜報活動を行っていたとされる。

(1月4日 Reform.by、BPN)

●リトアニア国境警備隊は、ベラルーシ国家国境委員会が不法移民の幫助だけでなく、たばこ等の密輸も黙認しているとして非難

(12月27日「ゼルカロ(鏡)」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(1)12月26日～1月1日

・リトアニア国境警備局は少なくとも61人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも396人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも297人を阻止。

(2)2022年通年

・リトアニア国境警備局は11,211人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は約15,600人を阻止(2021年は約4万人)。

(12月27日～1月2日 BPN)

【経済】

●中国・ベラルーシ産業特区「巨石」(中白工業園區、Great Stone Industrial Park)登録企業が100社に

・12月28日、29日に、それぞれ99社目、100社目の企業の登録式典が行われた。

(12月29日「巨石」、国営ベルタ通信)

●2023年の基本単位は37ルーブル(約13.5ドル)

(12月31日 法律ポータル)

●ロシア占領下のクリミア企業がベラルーシへの輸出等を契約

キヴィコ・クリミア「副首相兼財務大臣」は要旨以下を述べた。

・ワインと小麦粉をそれぞれ5,000万ロシア・ルーブル(70万ドル以上)、ミンクを8,300万ロシア・ルーブル(120万ドル)輸出する契約をベラルーシと締結。

・2022年にクリミアの企業は、ベラルーシでの農業展「ベルアグロ」、食品展「プロド・エクスポ」にそれぞれ出展。

(12月26日 露タス通信、「ゼルカロ(鏡)」)

●リトアニア内務省は、対ベラルーシ制裁を踏まえて2022年に同国で凍結した資産を発表

12月20日現在、ベラルーシの1自然人・6法人の資産、総額945万7,000ドルを凍結。

(12月29日 BPN)

●ベラルーシとロシアは内航水運に関する両国政府間協定に署名

(12月28日 運輸・交通省、「ゼルカロ(鏡)」)

●2022年の外国人観光客に関する統計

アンドレイ・チク・スポーツ・観光次官は記者会見で要旨以下を述べた。

- ・外国人観光客の数は 116.3 万人。うちロシア人が 39.3 万人、リトアニア人が 31.5 万人。
- ・リトアニア人とラトビア人観光客は前年比 7 倍に増加。無査証体制が増加を後押し。ただしポーランド人観光客は前年なみ。
- ・外国人観光客による消費額は、2022 年 1 月～10 月で前年同期比 39%増の約 1.5 億ドル。そのうちロシア人による消費が 1.19 億ドル。
- ・ホテル利用は 200 万人。夏季の各州都のサナトリウム利用状況は予約客を捌ききれなかったほど。
- ・2022 年 1 月～9 月には国内パック旅行を 115.7 万人が利用。

(12月28日 「ゼルカロ(鏡)」)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表はヴォリハ・ハルブノヴァ氏を「統一移行内閣」社会問題担当代表に任命

ハルブノヴァ氏の担当事項は以下のとおり。

- ・政治犯やその親族に対する体系的な支援
- ・国際社会における政治犯に関する問題解決のための「統一移行内閣」の活動強化

(12月26日 「統一移行内閣」、「ゼルカロ(鏡)」)

●チハノフスカヤ民主勢力代表の新年の挨拶

- ・我々は皆、お互いを理解できると信じている。問題は、他の人が聞いていない、理解していないように見えること。これが、我々が互いへの信頼と自分自身への信頼を失う方法。
- ・ある時、小さな町の男性から電話があり、自分の話をしてくれた。彼は「自分は重要な人物ではないし、自分にできることはあまりない」と言い始めた。しかし彼一人で、ウクライナでの戦争に向けられた軍事装備を積んだ列車全体を止めることができた。

・我々には自己不信という特性があり、時に、より強い者にすがる。しかし、我々は、強く、経験豊富で、恐れを知らない。我々の国には強い力が必要ない。信頼、相互尊重、連帯こそが必要。

・ベラルーシは、我々の誰もが望まない戦争の瀬戸際にある。ルカシェンコ政権は我々をロシアの側でこの戦争に巻き込み、我々は共同侵略者とされた。ベラルーシ人はそれを支持したことはなく、常に戦争に反対してきた。

・本格的な参戦は後戻りできない一線。ベラルーシ軍のウクライナへの展開を許してはならない。

・危険な隣人への依存の放棄がベラルーシの国益。ベラルーシは、発展し、独立し、経済的に安定し、国民志向の国家になることができる。

(12月31日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

【その他】

●元日に1月の観測史上最高気温を記録

・ミンスクは日中 10℃、ブレストは 16℃。

(1月1日 国営ベルタ通信)

(了)